



ほうへいかいほう

Vol.71 2013.9.15

豊平會報

北海学園大学同窓会 ● 編集責任者 / 高田哲也 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL 011-841-1161



C O N T E N T S

●平成 25 年度評議員会開催 / 支部長・評議員交替	2
●輝く北のまち紹介リレー 南富良野町	3
●入試課レポート	4
●研究室のいま 須田一弘教授	5
●卒業生奮闘記	6
●現役学生インタビュー	7
●第 6 回ホームカミングデーご案内	8
●平成 25 年度総会・懇親会「同窓の夕べ」ご案内	9
●支部紹介 木端会	10
●支部だより	11
●OB 異業種ネットワーク / サッカー部 OB 会	12
●OPEN SPACE	13
●平成 24 年度事業報告 / 25 年度事業計画	14
●平成 24 年度収支決算書 / 監査報告書 / 25 年度予算	15
●クラブ・サークル活動通信 / 事務局からのお知らせ	16

粹 ~ IKI ~ 北海学園大学

写真提供：快ラボット

平成25年度 評議員会開催

事業計画など原案どおり承認

平成25年度の同窓会評議員会が6月25日(火)午後6時から札幌パークホテルで開催された。卒業期77名、地域・職域支部48名の評議員計125名(委任状含む)と同窓会役員30名が出席した。

開会宣言後、物故会員に対する黙祷ののち、次第により会議に入った。森本正夫同窓会会長からは「一昨年3月11日の東日本大震災で、多くの方が被災・犠牲になられました。謹んでお見舞い申し上げますとともに、

1日も早く復興されますことをお祈りいたします。震災、そして原発問題、円安等、日本経済は大変厳しい状況下であり、また、出生率低下による少子化現象等、私学を取り巻く環境も一段と厳しいものがございます。皆様のご支援、ご協力を賜りまして、この難局を乗り越えてまいりたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。」

夫氏(法学・昭和46年卒)、副議長に桑山和夫氏(経済・昭和46年卒)、議事録署名人名に卒業期から高野勝義氏(経済・昭和42年卒)と地域・職域支部から澤定夫氏(経済・昭和31年卒・関西支部長)を選出し議事に入った。



昭(昭和39年卒)から監査報告が行われ原案どおり承認された。

第2号議案
平成25年度事業計画(案)並びに予算(案)について、森本会長より説明が行われ、質疑応答の後いづれも原案どおり承認された。



第1号議案

平成24年度事業報告並びに収支決算について、事務局の大橋孝行(経済・平成3年卒)と佐々木啓明(工学・平成3年卒)から報告が行われ、それを受けて会計監事を代表し横谷貞夫氏(短大士II

第3号議案

60周年記念事業について森本会長より説明が行われ質疑応答の後原案通り承認された。(評議員会資料は14・15頁に掲載)

支部長・評議員交替

支部長交替

- 北杜会 田中 清貴氏 ↓ 平成25年4月1日付
- 東 彰氏(昭和52年工学部)
- 千歳支部 佐々木 昭氏 ↓ 平成25年4月1日付
- 石塚 雅樹氏(昭和56年工学部)
- 岩田地崎支部 山根 幸義氏 ↓ 平成25年4月11日付
- 三好 修氏(昭和57年工学部)
- 岩見沢市役所支部 今野 幸広氏 ↓ 平成25年5月10日付
- 中山 章氏(昭和56年経済学部)
- 北海学園大学支部 浜野 道敏氏 ↓ 平成25年5月17日付
- 菅川 雅司氏(昭和53年経済学部)
- 江別市役所支部 柴垣 文春氏 ↓ 平成25年5月21日付
- 中川 雅志氏(昭和55年経済学部)
- つつけん支部 十河 政敏氏 ↓ 平成25年5月24日付
- 大石 康文氏(昭和52年経済学部)
- 空知支部 戸田 源二氏 ↓ 平成25年6月7日付
- 佐野 秀幸氏(昭和44年経済学部)
- 北広島市役所支部 向島 久博氏 ↓ 平成25年7月27日付
- 櫻井 芳信氏(昭和54年経済学部)

期別評議員交替

- 中川 保弘氏 ↓ 9期
- 大越 誠幸氏
- 欠員補充 ↓ 10期
- 佐藤 忠氏
- 支部分評議員交替
- 札幌市役所支部 西川 英一氏 ↓ 平成25年4月1日付
- 上野 輝佳氏(昭和53年経済学部)
- 北杜会 田中 清貴氏 ↓ 平成25年4月1日付
- 東 彰氏(昭和52年工学部)
- 豊陽会 渡邊 啓氏 ↓ 平成25年4月1日付
- 小林 憲雄氏(昭和54年法学部)
- 千歳支部 佐々木 昭氏 ↓ 平成25年4月10日付
- 石塚 雅樹氏(昭和56年工学部)
- 江別市役所支部 寺島満喜子氏 ↓ 平成25年4月11日付
- 東 嘉一氏(平成7年法学部)
- 空知支部 戸田 源二氏 ↓ 平成25年5月24日付
- 佐野 秀幸氏(昭和44年経済学部)
- 北広島市役所支部 向島 久博氏 ↓ 平成25年7月27日付
- 櫻井 芳信氏(昭和54年経済学部)

輝く北のまち 紹介リレー

みなみふらの
②南富良野町

～小さい町だからこそ出来ることを大胆な発想と行動力で～



人口：2,751人
面積：665.52km²

北海道内の町を訪問し卒業生とのインタビューを通じて、町のご紹介をしながら町の魅力を再発見していく企画の第2回目は南富良野町です。

1999年に公開された高倉健主演の映画「鉄道員（ぽっぽや）」の舞台となった幌舞駅（現在は幾寅駅）を左手に見ながら、初夏の6月26日、南富良野町役場に池部彰町長を訪問しました。



庁舎玄関の手前に設置された三重県（伊勢）からの開拓団の記念碑についてのご説明を伺った後、役場庁舎内の町長室にてインタビューをさせていただきました。

～北海学園大学出身の首長との絆～

現在、北海学園大学の卒業生の中に9名の道内市町村長がいます。

今はそれぞれの出身地に戻っていますが、青春時代の一時期を同じ学び舎で学んだ仲間としてまた話が出来ればいいと思い、お互いに声を掛け合って集まるようになりました。

先日発刊された雑誌によると、道内企業の社長は北海学園大学出身が一番多く、今年も衆議院議員2名、参議院議員1名の国会議員が誕生しました。

今こそ道内の一次産業を活性化させて地域から発信していくことが必要であり、北の雄として北海学園大学に期待する声は大きくなってきています。北海学園大学の時代が今ここにきているのではないかと感じられます。

～土木の道へのきっかけ～

南富良野町には、金山ダムという多目的ダムがあります。

実は、このダムは私が土木の道に入るきっかけとなったのですが、国の開発政策の中でこの金山ダムの建設が始まりました。中空重力式ダムとして大変儉約して造られました。その時に求められたのが優れた技術力です。限られた資材で最大の効果を出すために技術の推移を集めて造られたダムなのです。

私は高校時代にそこで力仕事のアルバイトをしていました。ダムが出来上がっていくのを目の当たりにして、これからはコンクリートの時代になり、土木技術が大きく社会を支えていくことを感じました。

それで、北海短期大学土木科が4年制になるということを知り受験しました。卒業後は民間の企業に就職し、その後地元の役所が土木技術者を募集していることを知り南富良野町に戻ることになりました。

南富良野町役場では、道路・農業・林業・建設関係の他に、リゾート関係の部署にも携わりました。リゾート開発の全盛期だったので用地買収の折衝などにも係りました。

地主の方々との交渉が必要な場面では、単なる土木技術者としてではなく、大学時代の経験を活かした対応で困難な場面を切り抜けました。その結果、交渉が成立した時は、重要な役割を果たしたことを役場の先輩達が認めてくれました。

初代観光課長の時代には、金山ダムの湖水まつりの司会を担当するなど、イベントを盛り上げるために自ら積極的に活動しましたね。

また、富良野大雪リゾート開発の際には、ふるさと創生事業に関連して、離農者が植樹したカラマツの木々を有効に使ったログハウス建設計画を立案し、国や北海道庁への折衝にも奔走し13億円を掛けて「かなやま湖ログホテル ラーチ」を建設しました。全室メゾネットタイプの国内初の本格的ログホテル本館9室とコテージ9棟があり、豊かな森に囲まれて四季を通じて楽しめます。

最高のお料理とおもてなしが評価されてリピーターのお客も多いと評判で、この施設も町にとって大切な財産です。是非多くの皆さんに来ていただきたいですね。

～青少年の育成に懸ける夢～

金山湖北部に子供の国を造る計画が進行しています。大阪の実業家が全国に展開している事業の一環として、現在はその拠点となる建物を建築中です。

全国に展開中の「Kids Com Farm（キッズ コム ファーム）」という開拓村づくりプロジェクトとして、総合子育てサービス事業を手掛ける民間企業と行政が協力し合いスタートした、新たな取り組みとなっています。

田舎を持たない小さい子供達にいろいろな自然体験をさせることが目標で、拠点は今年8月に完成式の予定です。敢えて国の認可を受けない施設の可能性を拡大していこうとする試みです。

南富良野町では、現在、子育て支援として22才までの医療費無料化を実施し、今後、学校給食無償化なども検討しているほか、沖縄の子供達を招いての交流事業なども行っています。全国から集まってくれる子供達が、将来は故郷として南富良野町を想い訪ねてくれると嬉しいですね。

長期間に渡るプロジェクトですから、今後は恵まれた自然の価値をどう高めていくかが大事といえます。

～新技術開発で目指すまちの将来～

耐震問題の関係で町内の中学校を一つに統合しましたが、2010年秋から地元の材木を利用した森林エネルギーとしての木質チップを使ったボイラーを導入し、温水による床暖房等に利用しています。

南富良野町森林組合を中心として、雪氷を利用した北国ならではのチップ乾燥システムを構築して、チップのグレードを上げて良質のチップを供給しています。南富良野町は、森林と市街地、公共施設が近く、木質バイオマスの地産地消モデルとして立地条件にも恵まれています。

南富良野町の面積665km²の内9割近くの山から出る立地材を有効に地域のエネルギーとして使おうということで、森林組合で木質チップを製作して提供出来るようにしました。

昨年は、雪を利用して冷風を使い低コストで乾燥させる仕組みをNEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助をもらい初めて共同研究しました。出来るだけ低コストで効率の良いエネルギーを造る技術を開発し、現在は実質的にスタートしています。

これからも、小さい町だから駄目なのではなく、小さい町だからこそ出来ることを実現していきたいと思っています。そういう発想は北海学園大学OBだから出来ることなのです。

かつて、大学から豊平橋を渡りススキノに行き酒を酌み交わし青春を謳歌した「豊平會」の我々が、大胆な発想と行動力で北海道を変えていけたらと思います。

もっと面白い北海道の市町村が出来たのではないかと期待しています。

（取材・文責 同窓会幹事 成田真利子）

入試課レポート

入試課長 西村 元

今どきの入試事情

近頃、新聞・テレビ・地下鉄のポスター等で「オープンキャンパス」のお知らせ・広告を目にすることが多いと思います。インターネットでは、「ホームページ」「スクールアプリ」「受験サイト」等に登録すると大学の最新情報が自動的にスマートフォンやパソコン・携帯電話に送られてきます。街中では、ビルの壁面にセットされた巨大映像画面「メガビジョン」での広告、札幌駅前地下歩行空間イベントスペースでは「オープンキャンパスフェア」として資料配布会が行われるなど、各大学・短大・専門学校が、競うように学校をアピールしています。

この「オープンキャンパス」は、多くの大学で年に数回（多いところでは5～6回）程度実施しており、毎月どこかの大学が開催しており、2年生を対象としたり、女子生徒向け等もあります。教職員や学生による学部学科の説明、学内見学ツアー、学食（学内食堂）の試食体験、記念品プレゼントなど、至れり尽くせりの催しです。さらに、最寄りのJR・地下鉄駅、あるいは道内各地からのバス送迎付き、交通費負担で開催している大学もあります。

高校では、分野ごとの「説明会」、「出前講義（大学教員が高校生用にアレンジした講義を提供）」が行われ、「進学相談会」には、各大学入試広報担当者が体育館でブースを作り、高校生に対応し、多い時には参加学校100校（専門学校含む）ということもあります。近隣のホテル・公民館でも同様に相談会が開催されています。

これらの催しは、高校側としては、将来を見据えた進路・就業選択を考える機会となることを目的とし、大学側としては、18歳人口の減少に対応し入学者を確保すること、早期の進路決定を助け、進学先の選択肢を広げる機会を提供しています。



平成25年度入試は、センター入試の難化により、私大への志願者が若干増加しました。理高文低（理系希望者が多く、文科系希望が少ない）、資格系人気（職業に結びつく資格を取得しやすい学部）の傾向で、かつ、経済的な面からも地元志向が強まり、「安・近・短（学費が安く、家から近く、受験期間が短い）」の特徴がみられました。そのため、地方から首都圏・関西圏への私大志願者は減少しています。

道内の状況は、本州からの志願者が一定数ある反面、難関校を中心に道内受験生の約3割以上が道外に進学しています。その結果、首都圏・関西圏の大手私立大学は、受験生確保のため、地方に入学試験会場を設置したり、高校訪問・進学相談会など積極的な広報活動をしています。そして、地方の国公立大学（北海道大、弘前大、岩手大、札幌医科大、小樽商大など）、関関同立（関西、関西学院、同志社、立命館）、MARCH（明治、青山学院、立教、中央、法政）、日東駒専（日本、東洋、駒沢、専修）等が、相談会に参加し、高校訪問を急増させています。

平成26年度入試では、センター入試や本学の入試制度については大きな変化はありませんが、平成27年度入試から新教育課程入試となるため、センター入試の理科・数学が変わり、浪人を避け現役合格を目指す学生が多くなると予測されます。私立大学は、センター入試の結果によって大きく影響を受ける場合があるので注意が必要です。

地方の拠点大学として

本学は、受験雑誌・ビジネス雑誌等で「地方の拠点大学」として位置づけられています。また、北九州地区（西南学院大、福岡大、九州産業大など）、名古屋地区（南山大、名城大など）と同様に、地元志向が強く、在学生に占める地元出身者の比率が非常に高い大学の一つです。

前述のように、東京を中心とする有力私大は地方からの志願者獲得のために人員や予算を割いて力を入れており、道内の高校に対する働きかけを強めています。

本学においても入試広報のあり方等について東京の複数の私大と情報交換や研修会を行ってスキルアップに努めているところです。当然のことながら、一方において魅力ある大学になるよう不断の努力が必要です。カリキュラムの再編等を伴う教育内容の充実を着実に図っていくこと、「出口」の部分では、キャリア支援のより一層の充実が必要となります。単なる見かけの就職率だけにとらわれず、受け入れる企業にとっても、また、就職する学生にとっても双方が満足出来るような体制に近づける努力が必要であると考えます。

「ミニオープンキャンパス」旭川・帯広・函館で開催

今年最後の「オープンキャンパス」は、9月29日（日）12時30分～16時00分より、豊平・山鼻キャンパスにおいて開催されます。昨年度は904名の参加でした。

また、地方開催として「ミニオープンキャンパス」が、旭川10月5日（土）、帯広10月26日（土）、函館11月2日（土）に於いて、14時00分～16時30分まで開催されます。各学部・キャリア支援センター（旧就職部）・学生部等の担当者（教職員あわせて約20名）が説明を行います。同窓OB・OGの身近におられる受験希望者にも是非ご案内いただければと思います。なお、「ミニオープンキャンパス」の翌日は「在学生対象の保護者懇談会」が行われています。

道内の大学・短大進学率に思う

道内の経済状況の厳しさは深刻化しています。そのため、大学・短大進学率は、全国平均54.4%に対し、道内の平均は40.4%です（文部科学省「学校基本調査」より）。進学したくともできない方が多数います。一方、保護者の方の中には、「大学に進学しても就職先がない」、「高校卒で就職できればそれで良い。」とお考えの方もおられます。しかし、「大学に進学するとはどのようなことか」、「大学をでると将来どうなるのか。」を考えるべきです。高校生の諸君は「大学は何をすることなのか」、「大学で何をしたいのか。」しっかりとした考えを持ってもらいたい。このことは、大学の学部・学科選択に結びつきます。そして将来の進路・就職を考える基本となると考えます。

このような社会環境と入試状況は、道内の大学にとっても経営的に厳しい問題です。少しでもこの進学率をあげることが定員確保に直結する課題です。

北海道の私立大学が生き残るために、それぞれの大学の真の力が試されます。真の力の一つとして、同窓OB・OGの皆様のご意見やご助力をいただきたいと思います。



トンガの礼服を着た 10年前の筆者、現在はかなり老いさらばえている

研究室のいま

人文学部教授

須田 一弘

—担当科目 学部 文化人類学Ⅰ等
大学院 アジア文化論特殊研究等

■プロフィール 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学
鹿児島大学博士（農学）

著書：「人類の移動誌」（共著）2013年 臨川書店等

所属学会：生態人類学会（理事）、日本オセアニア学会、日本人類学会、日本文化人類学会等

フィールドワークから戻って考えること

私が本学に赴任したのは1992年の4月なので、今年で22回目の夏休みを迎えることになる。ただし、夏休みを涼しい北海道でのんびり過ごしたのは、今年も含めわずか4回だけで、他はすべてオセアニアや東南アジアの熱帯の国々でフィールドワークに明け暮れていた。私の専攻は人間と環境の相互作用を研究テーマとする生態人類学で、現地の人々の具体的な生活を記録することから始まる。人々が森や海へ、狩猟や採集、畑仕事や漁に出かければ、邪魔にならないようについて行き、その作業を記録し、何時間でも何がどれだけ獲れたのかを記録する。頭よりも体力を必要とする肉体労働が中心である。

若いうちはよかったが、馬酔木を重ねるにつれ、森の中でヒルや蚊に血を吸われたり、低緯度地帯の海上で紫外線にさらされたりしながら人々と同行することが身体に負担となってきた。とくに、去年の秋に体調を崩してからは、体力にも自信がなくなった。調査をしない生態人類学者などというものは、まったくつぶしがきかない。そうなると、今まで体力のみで勝負してきたので、頭を使うことにはまったく自信がないのだが、これまでの調査で収集したデータをなんとか継ぎはぎしながら糊口を凌ぐほかはない。そんな中、現在は次のようなことに関心を持っている。

オセアニアで調査を行ったのは、メラネシアのパプアニューギニアとポリネシアのトンガ王国である。ニューギニアは約5万年前、トンガは約3千年前に東南アジアから人々が移動してきたと考えられている。ところで、オセアニア地域には、家畜となるような動物が生息していなかった。現在では、多くの地域でブタやニワトリ、イヌが飼育されているが、これらの家畜は今から4～5千年前に、東南アジアから人の移動とともに連れてこられた動物の子孫であると考えられている。このうち東南アジアと気候が似ていたニューギニアでは、飼いブタが森に逃げ出し、野生に戻ったノブタが多数生息している。また、ニューギニアでもトンガでも飼いブタを食べるのは年に数度の儀礼時に限られていて貴重な食料となっているが、それだけではなく紛争解決や婚姻時の交換財としても重要な地位を占めている。

このように、両者ともブタの重要性は同じなのだが、私が調査を行ったパプアニューギニア西部州のクボ集団とトンガでは、ブタの飼い方や食べ方の規則が大きく異なっている。クボの飼いブタはメスと去勢オスが放し飼いにされている。メスブタは森の中に入り、ノブタのオスと交配し出産する。飼い主（主に女性）は生まれた仔ブタを我が子

のように可愛がり、編み上げたバッグに入れてどこにでも連れて行く。自分の赤ん坊がいて授乳している時は、もう一つの乳房から仔ブタに授乳することも。このように家族同然に育てたブタを食べることは考えられず、儀礼などで必要な時は、泣く泣く他者の飼いブタと交換してそれを食べている。クボでは1980年頃までカニバリズムが行われていたが、これは自分の身内を殺したとされる邪術師を襲撃して殺害し、襲撃の協力者と一緒に食べていた。このように、クボでは身内である飼いブタは食べることができないが、敵ならば人間でも食べていたのである。

一方、サンゴ島のトンガではブタはすべて飼いブタである。夜の間は家の敷地内の囲いの中に入れられるが、日中は村の中で放し飼いにされる。また、村はフェンスで囲まれており、村の外にある畑に入らないようにしている。お祝いなどの儀礼時にブタを食べるのはクボと同じだが、自分の飼っているブタを屠畜することにためらいはない。朝のうちに囲いの中に入って仔ブタを捕まえると、器用に殺して調理する。じつは、食べる家畜はブタだけではなく、場合によっては番犬として飼っていたイヌも殺して食べることがある。

こうした違いはどこから来るのだろうか。クボでは、動物性食物は森に生息する有袋類、鳥類、ノブタが主であり、それらはソトの世界に位置づけられる。ソトにあるものは家畜であれ人であれ、食べて良いものになる。ウチにいる人や家畜は境界の中にあるものであり、食べることはできないのである。一方、トンガでは陸上性の哺乳類はすべて人間が持ち込んだものであり、当初の用途は別にせよ、すべて食料となる可能性を持っている。ウチとソトの境界があいまいな中では、飼っている動物への愛情はあまり意味を持たなくなる。こうした違いは他者との差異を強調する少人数の言語集団で暮らし、常に邪術をめぐる他者との葛藤に身を置くクボの求心性と、かつてポリネシア全域に短期間で拡散し、現在では多くの海外移住者を有するトンガの遠心性と関連があるのではないかと、両地域から遠く離れた北海道の研究室で、この頃はこんなことを考えている。



弓矢で仕留めたノブタ、野生のものは誰でも食べることができる(クボ)



さっきまで庭を走っていた仔ブタがこんがり焼かれる(トンガ)

ガフハルOB・OGをプロデュース

卒業生奮闘記

北海道遠軽高等学校 校長

後藤 哲 氏

Gotoh Satoshi

e-mail sgotoh@hokkaido-c.ed.jp

経済学部経営学科 1982年卒 14期生
大学院経済学研究科 1984年修了



■プロフィール

美唄生まれ。産業心理学ゼミ（後藤啓一先生）。大学院修了後、高校教員。苫前商業、野幌高校を経て、教頭（網走南ヶ丘高校）。平成17年北海道教育庁主幹。平成21年国立函館高専教授、最優秀教員賞受賞。平成24年度現職。（日本教育経営学会会員、北海道高等学校政治経済研究会副会長、国立高専機構本部FD教員研修講師、豊陽会副会長（北海学園出身教員の会））

—— 最高の出逢いに恵まれて ——

限りある仕事人生だから、心を揺さぶる仕事をしたい

教育しか解らないので、教育の世界にずっぽり浸かっている。茹でガエルの法則の如く、浸かっていると変化に鈍くなる。それで、多様な出逢いを意識的に仕掛けている。

- 1 出逢いの最初は、当然両親。「親孝行したい時に親はなし、然りとて、石に布団を着せられもせず」で、亡くしてその有り難さを感じる今日この頃。起業した父と支えた母は、よく働き代を築いた。お陰で何不自由なく育った。私が寝ないで働いていても追いつけそうにない。自分も子供たちにそう思わせたいという厄介な意地がある。
- 2 格別だったのは、恩師、故後藤啓一先生との出逢い。人気の後藤ゼミで海外研修旅行があった。動機は不純であろうと動機付けられた行動は強い。行動科学の神髄。お陰で雪の結晶がシンボルの企業に就職内定。その時、啓一先生が「大学院どう？」モラトリアム的心が蠢き、先の企業を断った。当然、烈火のごとく怒られた。しかし、先生は涼しげな顔をされていた。その後、ススキノに向かう先生の鞆は軽くなった。気持ちと鞆は同化することが解った（鞆持ちの原理）。そんなこんなで、仲人もお願いした。節目では真っ先に相談した。答えは常に正しく、有り難かった。私の正規の尺度である。
- 3 2013/2/13に経済の伝書鳩という情報誌に紹介されたので、一部拝借（許可済み）。

オホーツクから “持っている”？ 後藤 哲校長 遠軽高の生徒達の謙虚さを自負

21世紀枠発表の1/25午後3時、遠軽高校で高野連からの連絡を受けたのが後藤哲（さとし）校長（55）。丁寧に受け答えて、長い電話の最後ようやく、はにかんだ笑顔を見せた。「いま全道一、いや日本で一番輝いている高校」（後藤校長）と自負する先頭に立ち、笑顔のメッセージを務める。21世紀枠候補の中から9分の4の確率を射止め、後藤校長は“持っている”ともつばらの評判。同校に赴任すると暮れにラグビー部が41年ぶりに花園で勝利。甲子園でも勝利を。同年度で両方に出るのは、道内初。



甲子園初出場初勝利



ガンダム作者 遠軽OB 安彦良和氏も応援

平成15、16年度に網走南ヶ丘高校定時制教頭を務めた。入学人数減少に悩む中、町内会に顔を出し、生徒とボランティアに参加。市民活動センターの常連になった。企画した、社会人のための一日体験入学では教室に入りきれないほどの市民が参加。道内初の三修制導入にも尽力した。開かれた定時制は、毎年10人前後だった入学人数を20人超えに押し上げた。その後、北海道教育庁で道内初の登別明日の中高一貫校（中等教育学校）立ち上げに関わり、次の国立函館高専ではキャリア教育を講義、3年で千件超のカウンセリングも。高校教諭から教授に登用された珍しい例となった。これも道内初。

甲子園出場は「オール遠軽でいただいたもの」と地域に感謝。生徒達を純粹培養に例え「子ども達は育てられたように育つ」の持論に沿い、その謙虚さを自負する。その上で本人は後援会設立総会で「勝利を手土産にしたい」と謙虚でないのが憎めないところ。

この記事は、十年来交流のある寒河江記者によるもの。相互に為人を知る。いつも好意的で有り難い。心地よい距離感のある出逢いである。

4 本庁では、鉈の異名を持つ上司と出逢った。ずいぶん迷惑をかけられたが、それ以上に面倒も見てくれた。仕事のノウハウを学んだ。寝ないで仕事もした。今、戦友と呼んで親しくしてくれる。彼のためならいつでも楯になれる。義理人情の出逢い。

5 この頃、新しい学校の校歌を依頼するため東京のスタジオに誠意と情熱だけを抱え飛び込んだ。メジャー「大黒摩季」は、すべてに最高だった。彼女からの無償ギフトは、校歌と友情と感動だった。校歌「明日の空に」のデモテープを初めて聞いた時、設立メンバー皆で泣いた。TV等のメディアにメッセンジャーとしてよく出させてもらった。出逢い「熱くなれ」だった。

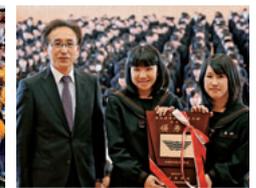


大黒摩季氏と

6 その後の高専では、キャリア教育、リメディアル教育を担当。修士論文がcareer development program やっと目の目を見た。石の上にも30年、我慢が大切と言うことか。畑違いの場所で情熱的な20%の教授陣と汗を流し、建設的な仕事が出来た。高等教育機関を実感し、世界を広げた出逢いだった。



全国5校が受賞 甲子園応援優秀賞



7 「全校生徒を甲子園に連れて行きたい。20年30年先、本校を支える応援団にこの子たちは必ず成るのだから、大きな先行投資をお願いしたい。」校長として希望を問われ迷わず、無理を承知で言った。飛行機での移動と宿泊は、地域や同窓会に大きな負担を掛けることになる。北海道からの600名規模の全校応援は前例が無いと聞く。目標が出来た。大きな目標達成のために関係者は必死に動き回った。町は甲子園一色になった。そして、全国の遠軽関係者、高校野球を愛する人と縁が出来た。驚異の出逢いである。経験は試練と成長を与えた。関係者が苦しくないわけがない。言葉の重さを知った。勉強になった。

今、遠軽高校は、6つの部活が全国大会で活躍する。校長室には6本の優勝旗が並ぶ。どうして、そんなに強い？と聞かれる。「地域が支えてくれるから」と答えることにしている。以下は心の中で、クラスの1/3が全国へ、それがスタンダードとなり、目標を高くストレッチする。目標実現のための最大の工夫レパレッジ。組織経営戦略そのもの、と。

教育は、北海道、日本の未来を支える子供たちを育てる仕事、私の心を揺さぶる。崇高でやり甲斐がある。これしか出来ないで徹底的にやる。黙っていると最高の出逢いを見逃してしまうようだ。懸命だと向こうから近づいてくるらしい。理念・知性のある情熱が良き出逢いを産み、「持っている？」を実現させるのではと、薄々感じている。

今、教育者として、子供という未来とともにあることに心から感謝している。

現役学生インタビュー

北海道大学全学応援団指導部

副団長 **石井 詩朗さん** (人文学部2年)

副団長 **佐藤 諒さん** (経済学部2年)

主将 **木村 朱郁さん** (経営学部2年)

主将 **鈴木 萌絵さん** (人文学部2年)

石川麻里子さん (経営学部2年)

伝統を守りつつ新たな風を吹き込む 応援団指導部&チアリーディング部 フレッシュ!!フレッシュ!!北海道、 フレッシュ!!フレッシュ!!北海道

北海道大学が誕生してすぐの1954(昭和29)年に有志が集まって創設されたのが応援団のはじまり。2004(平成16)年の同窓会50周年を節目に刊行された『北海道大学同窓会50年史』には、創設時のエピソードが諸先輩によつて語られています。以後、部員数が減少、その伝統が消えかかるといふ危機が訪れましたが、それを乗り越えて活動が継続されています。その応援団に花を添えるチアリーディング部は、2000(平成12)年に創部され、競技チアと応援活動に活躍をきていま

す。今号では現在のメンバーに話を聞きました。

Q 入団、入部のきっかけはどんなことだったのですか?

木村さん 頑張っている人を観るのが好きで、応援することによって人に元気を与えられるのがチアリー



ダーかなと思いました。高校では

バレーボールをやっていたんです。大学に入って違うことに挑戦してみようと思ったことも入部のきっかけです。



鈴木さん 入学したときに部員一人として頑張っていた先輩に勧誘の声をかけられました。その先輩の姿を見てやってみようと思



た。
石川さん 小学生の頃に日ハムの応援をしていて、ファーターズガールを見ていてチアリーディングをやってみたくないと憧れを持ちました。大学に入ってチアリーディング部で活動している人が少ないのに驚きましたが、頑張ろうと思



ました。
石井さん 私の父が実は応援団のOBだったので、やってみないうちから声がかかりました。団員

が誰もいなくなってしまうという理由がありました。高校時代には陸上をやっていたが、応援団にはちょっと興味を持っていたの

で、それではやってみようという1年生の夏休みから活動をはじめました。



佐藤さん 団長の石井君とは中学まで一緒に、高校でも、別のところに進学しました。大学でまた一緒に、応援団をやらないかと声をかけられてはじめてました。小さいころから付き合ってきたのでお互いによく知っていますから。

Q 少ない部員ですが活動はどうしていますか?

石井さん 応援団のOBのかたから熱心に教えていただき、応援方法、エールなどを自分なりに覚えていきました。団員が少ないので団旗を掲げる機会がありませんが、応援団の伝統をつないでいけるように工夫しています。

木村さん 練習は週に3日から5日、だいたい3時間から4時間かけて、工夫しながらやっています。チアは競技チアと応援活動の二つが柱で、競技チアはチーム人数が少ないので他の大学と合同で練習をしています。

Q これからの抱負について聞かせてください。

木村さん 部員を増やしたいのは当然ですが、練習の辛さ乗り越えたとこころに楽しさがあるのを知って欲しいです。



鈴木さん 石川さん チアリーディング部の活動のおかげで大学生活が充実しています。その楽しさをたくさんの人に伝えたいです。
石井さん・佐藤さん 伝統を意識しながらも、私たちの新しい感覚を取り入れた応援の仕方を作っていくたいです。先輩の言うことには従わなければいけないという古い体質のイメージを取り払って、けば、きっと団員の数も増えると思います。後輩の皆さん、是非、参加してください!!

応援団・チアリーディング部は北海道大学の象徴的な立場にあります。伝統を継承しつつもその時代ごとにあつた活動が求められることを現在のメンバーは肌身で感じながら活動を継続しています。このページから大きなエールの声が皆様が届くことを願っています。

第6回 北海学園大学・北海学園大学同窓会 ホームカミングデー



2013年10月12日(土) ***予約不要***



受付：9:30～13:00
開催：10:00～14:30

会場：北海学園大学 豊平キャンパス
受付：6号館 1階 エレベーター前

北海学園大学のホームカミングデーは、卒業生・ご家族・一般の方も参加頂けるイベントです。この機会にぜひお越し下さい！！



※学内には駐車場がございません。
公共交通機関をご利用下さい。

10:00～12:00 **第1回『学園かえるカフェ』** わたる 山田航が叫ぶ！ わたる 山田航と叫ぶ！ 短歌入門

「学園かえるカフェ」第1回は、いま日本の短歌界がもっとも注目する歌人のお一人、山田航（わたる）さん（本学大学院文学研究科修士課程2年）がゲスト。若者の心情の断片を切り出しナイフですばっと切りとる冴えた技法はもちろん、叫ぶように歌い上げるそのきっぱりとした朗読にも定評があります。10月12日は母校にて、歌人・山田航の叫びを目撃しよう！そして山田さんと一緒にあなた自身の歌を詠もう！

話し手：歌人 山田航さん（大学院文学研究科修士2年）

山田航さんプロフィール

札幌市出身の歌人。「夏の曲馬団」で角川短歌賞（2009年）、「樹木を詠むという思想」で現代短歌評論賞（2009年）等を受賞する。2012年に第一歌集「さよならバグ・チルドレン」を上梓。

聞き手：大石和久さん（人文学部教授）

小島康次さん（経営学部教授、図書館長）

田中 綾さん（人文学部准教授）

進行：樽見弘紀さん（法学部教授、法学部長）

◆「学園かえるカフェ」って何？◆

「カフェ」とは、気が置けない、形式にとらわれない討論会のこと。年に1回、通いなれた大学に帰る、青春のあの日・あの時に還る、そこから学園に対する思いがまた少しだけ変わる…。「学園かえるカフェ」で、あなたのなかに脈々と眠る知性や感性を呼び覚ましてみませんか。



会場：7号館2F D20 番教室

11:30～13:00 **『北海マルシェ』産直 ～学園大OBによる野菜と果物販売～**



江別産朝採り野菜

じゃがいも、人参、大根、白菜、ブロッコリー、玉ねぎ、長ねぎ ほか
エコファームで作った“安心・安全”な新鮮野菜を販売します！！



余市産朝採り果物

りんご、ぶどう、梨 ほか

生産者の方が心を込めて育てた
新鮮野菜と果物をぜひご賞味ください！

場所：7号館前特設テント（天候により商品が変更になる場合がございます、予めご了承ください。）

生協食堂 12:00～14:30

学食 de ランチ

ホームカミングデーにご参加の方には当日学食でご利用いただける食事券を配布します。

食事券配布

時間：9:30～13:00
場所：6号館1階受付



無料カイロ施術 10:00～16:00

**OB 異業種ネットワークによる
コリ固まった疲れた筋肉を
ほぐし、疲労を緩和**

協力：日本カイロプラクティックドクター
専門学院札幌校の生徒による
施術を無料で提供します。

会場：生協食堂スペース



写真展 10月12～14日(3日間)

写真部 OB 北彩会

今年も1号館1階入試部前スペースで写真展を開催します。

時間：11:00～17:00
場所：1号館1階
入試部前スペース



平成25年度 総会・懇親会 同窓の夕べ

日時 平成25年**10月26日(土)**

受付 / 17:30 ~
総会 / 18:00 ~ 18:30
懇親会 / 18:30 ~ 20:30

会場 札幌パークホテル
3階「パークホール」(着席制)
札幌市中央区南10条西3丁目

TEL 011-511-3131

会費 5,000円(税込)

会券のお求めについて

大丸プレイガイド、道新プレイガイド、北海学園生協書店G'bookSレジカウンター(教育会館2階、通常営業時間:月~金/10:00~18:30、土/10:00~13:30、日祝/閉店。※学事によって営業時間に変更されることがあります。)にて販売いたします。また、卒業期評議員、地域・職域支部評議員、各学部世話人、協力団体、同窓会事務局へお問い合わせください。

会券発送ご希望の方は、下記金融機関にて代金をお振込みいただき(振込手数料についてはご負担願います)、ご入金確認後、発送いたします。

- ・ゆうちょ銀行 二七九店 口座番号/当座0011355 受取人名/北海学園大学同窓会事務局
- ・北洋銀行 豊平支店 口座番号/普通0511055 口座名/北海学園大学同窓会

詳しくは同窓会事務局へお問い合わせください。

●申込み・問合せ先

北海学園大学同窓会事務局(大学4号館3階 計画室)
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40
TEL(011)841-1161(代) 担当/三宅(内線1148)・工藤(内線1168)
FAX(011)816-1001
E-mail:doso.hgu@k8.dion.ne.jp
平日/9:00~17:00(昼休み12:00~13:00)
土曜/9:00~12:00



お楽しみイベント

《賛助出演》

- 北海学園大学 よさこいソーラン チーム粋
- 北海学園大学 フリーフォームレスジャズオーケストラ ライブ
- 山口孝司ライブ
- 学園グレイトビンゴ 海外ペア旅行、温泉ペア宿泊券、自転車など豪華景品が多数!



写真は平成24年度同窓の夕べより

平成25年度全国支部長会議

・平成25年10月26日(土) 12:00~15:30
・札幌パークホテル3階「エメラルドA・B」

- 2014年度入試について 北海学園大学工学部教授 入試部長 真柄 祥吾
- 支部活動について(報告・意見交換) ■集合写真撮影
- 講演~高齢社会の到来と介護保険~ 北海学園大学法学部 教授 横山 純一

支部紹介

木端会

北海学園大学同窓会「豊平会」の各支部を紹介します。今回は昭和58年に創設された工学部建築学科の卒業生を対象とする支部の木端会です。

創立：昭和58年

〈木端会 第4代会長〉

白鳥 健志

(しらとり たけし)

昭和48年3月
工学部建築学科卒(2期生)
札幌市建築部長を定年退職し、現在、札幌駅前通まちづくり(株)取締役



〈副会長〉

城 秀夫

昭和49年3月 工学部建築学科卒(3期生)

桜井 修次

昭和51年3月 工学部建築学科卒(5期生)
北海学園大学工学部教授

〈幹事長〉

濱川 俊久 (はまかわ としひさ)

昭和54年3月 工学部建築学科卒(8期生)
(株)濱川設計 代表取締役

〈副幹事長〉

引地 俊一

昭和57年3月 工学部建築学科卒(11期生)

岡田 貴裕

平成元年3月 工学部建築学科卒(18期生)

木端会 (こっばかい)

設立：1983年(昭和58年)2月

会員：北海学園大学工学部建築学科の卒業生

会員数：約4,000人

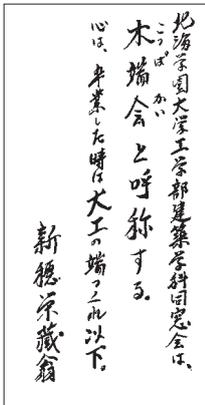
事務局：〒001-0021 札幌市北区北21条西4丁目2-20 (株)濱川設計内

事務局長：濱川俊久(幹事長)

▶支部の創設

「木端会(こっばかい)」は、工学部建築学科の卒業生を対象とした同窓会で、1983年に設立されました。私も今では、その誕生の経緯を知る数少ない一人となりましたので、その時の様子を振り返ってみたいと思います。

建築学科の第一期卒業生が誕生したのが1972年ですから「木端会」の設立はそれから11年後のことでした。浮田教授(故人)から「卒業生同士、ネットワークをつくって仕事や人生に活かすべき」と勧められたのが動機であったと記憶しています。悩んだのが会の名称。そこで、学生に絶大な人望があった新徳教授(故人)にお願いしたところ、「木端会」と名付けていただきました。師曰く、「君らは卒業したときは大工の端つくれ以下(木端)。切磋琢磨して一人前の大工(技術者)になって欲しい」。これが「木端会」の謂れです。



▶支部活動

その後、5年間の休止期間がありましたが、現在では毎年2月に総会を行っており、今年度は第25回目にあたります。同窓会の主な目的は、「会員相互の親睦を深め北海学園大学の発展に寄与する」こと。このことを念頭に各種活動を行っていますので、その一端をご紹介します。

▶〈「総会・懇親会」～コミュニケーションの促進～〉

昨今の建築業界は、非常に厳しい時代が続いており、国交省の建築総合統計によれば、北海道の「民間・公共を併せた工事発注額」は、10年前のそれに比較すると約1/2に落ち込んでいます。そこで、それに対抗するにはネットワークが大切と考えて、「木端会」の持つ「人と人のつながり」を有効に活用し、情報の交換や相談、アドバイスなどが行われビジネスの創造にもつながる“プラットフォーム”を築きたいと思っています。

年に一度開催する「総会・懇親会」では、5年ほど前から、卒業後社会に出て活躍している人(会員)を招き、建築作品の紹介などの実践発表をしてもらっ



「総会・懇親会」の様子(H24.2.)
懇親会終了時の副会長あいさつ(後ろに並んでいるのが現役学生)

ています。このコーナーは、先輩・後輩を問わず参加者から好評で、ネットワークの促進につながるものとして大いに期待しているところです。

また、最近では、この会に現役の学生を招いて、卒業生と積極的なコミュニケーションをとる場を設けています。毎年15名以上の学生の参加があり、「社会に出てからの身の置き方」や“人との接し方”などについて、積極的に質問しています。このことは、徐々に高齢化比率が高まってきた「木端会」に対して、若々しい風を送り込む効果があり、今後も継続していきたいと考えているところです。

▶〈社会貢献活動～歴史的建築物の状況調査～〉

そして、もう一つ、「木端会」の活動として特筆したいものに会員が有する“建築の技術や知識”をフルに活用して行う「歴史的建築物の状況調査(老朽度調査)」があります。近年、歴史的に重要な建築物に関しては、公共団体も保存に力を入れています。財政的な観点から多くは指定できず、後年次に送られ、その結果保存状態が悪化するケースがあります。そこで、我々は適切保存のための状況調査をし、維持補修の必要性などについて提案をしようと考えました。

これまで調査を行ったのは、札幌市所有の『旧永山武四郎邸新棟(旧三菱セメントの札幌寮)』、『つきさつぶ郷土資料館』の2棟です。これらの建物は築年数が若いので、まだ文化財には指定されていませんが、将来はその公算が強く、今から有効な補修を施す必要あると言えます。

過去2回の調査では、現役の学生を含めてチームを構成して行っており、調査後作成する報告書は「補修の必要箇所などが素人にでも理解しやすい」と好評で、「木端会」の総会でも発表し、多くの人から賛同を得ています。

▶これからの活動

「木端会」は建築学科の卒業生を対象とした同窓会であることから、今後も当会の持つ特徴を活かして、有意義な活動を続けていきたいと考えています。また、現在、学校に直接貢献できる事業について内部で協議をしているところでもあります。今後も会員のみならず、北海学園大学の関係者および学生のみならず、ご理解とご協力をいただければと思っています。



「つきさつぶ郷土資料館」(昭和16年建設)保存状況調査の様子(H24.11.)
資料館で資料展示を行っている町内会ボランティアのみなさんと記念撮影

(文責 支部長 白鳥健志)

支部だより

支部総会



千歳支部



山岳部 OB 会



苫小牧支部



岩見沢市役所支部



北海道大学支部



北翔会



江別市役所支部



写真部 OB 北彩会



経五期会



経六期会



つうけん支部



静内支部



関西支部



帯広信用金庫支部



道南支部



札幌市役所支部



札幌東区支部



東園会



北門会 夏季研修会



空知支部

各支部総会実施日

につきましては13頁に掲載しております。

北海道学園大学OB異業種ネットワーク 設立1周年総会開催

北海道学園大学OB異業種ネットワーク（世話人代表：小林米三郎）は、平成25年6月22日（土）、東京ドームホテルにて設立1周年の定時総会ならびに、「女子力」と題してパネルディスカッションを行いました。

コーディネーターは本学人文学部の田中綾准教授、パネラーには本学OGで道内初の女性エベレスト登頂成功者であるアルピニストの高橋留智亜さん（スポーツライミングジム「レインボークリフ」常務取締役）、元NHKアナウンサーで現在はフリーとして活躍中の吉野圭子さん（ボイス オブ サッポロ所属）、ガーデニングとシルクアートの株式会社ピーククリエイトの米田由美子さん、社会保険労務士の新田和代さんの4名をお迎えしました。約1時間のパネルディスカッションでしたが、パネラーの皆様より男性社会における女性の位置づけ、および女子力の巧みな活用について意見が多く出されました。

主な内容は、女性は頼まれ事が大好き、コミュニケーション能力は男性よりも女性が優れている、社会全体が元気になるためには女性とのコミュニケーションをもっと多く取るべき、女性は同時に色んな事を進行できる能力が自然と備わっている等々。



中でも、子育てと仕事の両立について、女性は男性には計り知れない苦勞をしている。その大



変さをもっと理解して欲しい、など日々の生活や仕事で感じる男性への意見も数多く目立ちました。

活発な意見交換がなされてパネルディスカッションは終了し、その後は懇親会へと移行しました。

懇親会には本学OBで衆議院議員の中村裕之代議員、船橋利実代議員にもご参加頂き、各会員との親睦を深めて頂きました。

参加者の方より「最初は“女子力”と聞いて、イメージがつかなかったが、話を聞いてみて自社の女性に対する接し方、女性視点での考え方を改めて聞け、実践してみようと思った。」という意見が多くございました。

今回、無事に設立1周年の総会を終了することが出来、本会の趣旨にご賛同、ご協力頂きました全ての方へこの場を借りて感謝申し上げます。

まだ会員になられていない方がおりましたら、会員は随時募集しておりますので下記までご連絡お願いいたします。

次回以降も趣向を凝らした内容を提供させて頂きま

すので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

（文責 世話人 坂口 幸司）

北海道学園大学体育会サッカー部OB会「永劫会」 60周年記念祝賀会開催

北海道学園大学体育会サッカー部は北海道学園大学経済学部が創設された1952年（昭和27年）野口祥昌先生を部長にむかえて創部されました。以来60年、人間の歳で言いますと「還暦の歳周り」と言う事になります。

記念祝賀会を6月15日札幌のホテルノースシティで開催致しました。来賓として森本正夫理事長・木村



和範学長・向田直範 体育会会長・高橋功 体育会OB会連合会副会長・宮崎文彦 三期会会長・坂尻孝一 北海高校サッカー部OB会会長はじめ、東北学院大学体育会サッカー部OB会 佐藤順会長、札幌大学サッカー部OB会 藤山和夫名誉会長、北大サッカークラブ 水谷洋一会長のご列席を頂き、北海道サッカー界を代表して

公益財団法人北海道サッカー協会会長の出口明様から祝辞を頂き、森本理事長、木村学長からも頂戴しました。宴の途中当OB会から2旗の応援横断幕「疾風蹴雷」＝しつさつしゅうらい（動く事ハヤテのごとく、蹴る事稲妻のごとし）と「全力闘蹴」＝ぜんりょくとうしゅう（全勢力・集中力をもって戦い抜く）と言う意味を込めて作製した横断幕を3期 中平勉先輩・11期 栗賀寛先輩からそれぞれ現役サッカー部への贈呈授与されました。

（会長 阿波 昭則 記）

OPEN SPACE

オープンスペース

第23回参議院議員選挙当選者 (2013年7月21日投開票)

平成25年7月21日の参院選で北海学園大学法学部を昭和44年に卒業の相原久美子氏が2期目の当選を果たしました。

市長選で再選

平成25年6月30日に北広島市長選挙が告示され、北海学園大学経済学部を昭和45年に卒業の上野正三氏が、3選を果たしました。

ゆうほう会 支部総会開催間近

日時 平成25年9月19日(木) 18時30分
会場 札幌全日空ホテル パルテール
連絡先 総務係 村口 康博 TEL 011-884-3894

支部総会開催報告

(平成25年4月以降)

- 4.11 千歳支部
- 4.20 グリークラブOB会
- 4.20 山岳部OB会
- 4.27 苫小牧支部
- 5.17 岩見沢市役所支部
- 5.18 小樽支部
- 5.21 北海学園大学支部
- 5.24 北翔会
- 5.24 江別市役所支部
- 5.25 写真部OB北彩会
- 6. 5 経五期会
- 6. 6 経六期会
- 6. 7 つうけん支部
- 6. 7 静内支部
- 6. 8 関西支部
- 6.15 サッカー一部OB会
- 6.22 帯広信用金庫支部
- 6.28 道南支部
- 6.30 蝸牛会
- 7. 2 東園会
- 7. 3 札幌市役所支部
- 7.18 札幌東区支部
- 7.27 空知支部
- 8. 3 北門会夏季研修会

YOSAKOI ソーラン大賞受賞

6月5日(水)～9日(日)に開催された第22回YOSAKOIソーラン祭りにおいて、本学チームの「粋～IKI～北海学園大学」が見事に最高賞であるYOSAKOIソーラン大賞を受賞しました。初出場から17回目の挑戦での快挙達成です。今回の演舞テーマは「お祭り謳歌」で、神輿や太鼓を使用しての若さみなぎる躍動感に溢れる演舞に多くの人が圧倒されました。北海学園大学と北海学園大学同窓会はこの栄誉を讃えるため、豊平キャンパスの平岸街道に面したところに記念の看板を共同で設置いたしました。また、これまでの本学チームの歴史を振り返るパネル展が、1号館1階入試部前のスペースで10月上旬まで開催されていますので、お近くへお越しの際はご覧ください。今秋の「同窓の夕べ」でも演舞を披露してくれますので是非お楽しみください。



北海学園大学同窓会 60周年記念行事企画について(予定)

60周年記念式典

日時 平成26年10月25日(土)
17時30分～18時
会場 札幌パークホテル 3F パークホール

60周年記念誌の刊行

仕様 A4判 約200頁
刊行 平成27年3月末(予定)

平成25年度下半期支部総会予定 (平成25年10月～平成26年3月)

	支部総会(予定)	場所	連絡先
10月	東京支部首都圏会(10/4) 会計学友会(10/26) 経八期会(10/26) 根室支部(10/30) 十勝支部	八重洲富士屋ホテル 北海学園大学 北海学園大学 中標津町 保養所温泉旅館 未定	支部長 岩井 久則 TEL 048-738-3761 会長 照井 俊夫 TEL 011-823-2197 会長 中鉢 光次 TEL 011-783-8904 支部長 田村 悦郎 TEL 0153-72-2128 幹事 西俣 亘 TEL 0155-22-7612
11月	旭川支部 伊藤組土建支部	未定 未定	支部長 齋藤 昂一 TEL 0166-57-4436 支部長 山下 斉之 TEL 011-241-8306
12月	釧路支部	未定	支部長 花井 啓司 TEL 0154-22-2345
1月	豊陽会(1/9) 北門会(1/9)	市立札幌大通高等学校 (懇親会 ホテルロイトン) 市立札幌大通高等学校	会長 小林 憲雄 TEL 090-9519-3525 事務局長 岡積 義雄 TEL 011-303-6868
2月	北社会(2/15) 木端会(2/21) 北広島市役所支部	ホテルノースシティ ホテルモンテレーデルホフ札幌 未定	幹事長 山本 秀康 TEL 011-613-3033 事務局長 濱川 俊久 TEL 011-708-0544 事務局長 及川 幸紀 TEL 011-372-3311
3月			

平成25年度 事業計画

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

本会の目的を達成するため、次の一般事業活動を展開するとともに、継続中の特別事業の学園創基・大学創立及び本会結成を記念した事業を継続推進する。

I. 一般事業

1. 会報の発行

豊平会報第71号・第72号を発行し、会員に送付する。
また、予備会員である在生にも配布する。

2. 支部などとの連携強化

地域支部・職域支部・同期会・クラブOB会などと連携を深め、支部活動や同期会・OB会活動を活性化するとともに、要請がある場合は「個人情報保護法」に基づき利用目的を明示したうえで会員の住所等の提供をおこない、支部支援を図る。

3. 新入会員名簿の作成

平成25年度新入会員(平成26年3月・平成25年9月卒業)名簿の作成、また、配付については、個人情報保護法との関連で見合わせる。

4. 新入会員歓迎会の開催

平成25年度新入会員歓迎祝賀会を、大学院・大学の卒業証書・学位記授与式(3月21日(木・祝))終了後、大学・学生自治会と共催で開催する。

5. ホームカミングデーの開催

同窓会・大学共催によるホームカミングデーを、10月12日(土)開催する。(6回目)

6. 総会・懇親会の開催

本年度総会担当の世話人会を経済学部1部経済学科39期(平成4年卒)・46期(平成11年卒)同経営学科27期(平成7年卒)・32期(平成12年卒)・経済学部2部経済学科33期(平成元年卒)同経営学科21期(平成元年卒)・法学部1部28期(平成6年卒)同2部28期(平成6年卒)・工学部土木工学科28期(平成11年卒)・建築学科28期(平成11年卒)・電子情報工学科17期(平成19年卒)・人文学部1部日本文化学科16期(平成24年卒)・同英米文化学科16期(平成24年卒)同2部日本文化学科16期(平成24年卒)同2部英米文化学科16期(平成24年卒)及び体育会本部OB会、体育会OB連合会、文化協議会OB会、応援団OB会、クラブOB会、ゼミOB会、地域・職域支部等の協力により、10月26日(土)総会を開催する。

7. 母校行事への協力

予備会員である在生及びクラブの活動に對して助成をする。
十月祭等の学校行事を通じて、在生との交流を促進する。

II. 特別事業

1. 本会結成60周年記念事業推進のため、本年度400万円を積立てる。
2. 学園創基・大学創立及び本会結成を記念した国際交流基金造成事業として、北海学園国際交流基金へ寄付を継続してきたが、近年運用果実が期待できないため、北海学園が同基金を取り崩し、学園設置校の国際交流教育活動への効果的な支出ができる国際交流教育振興引当特定預金とすることとなった。本会としては引き続き国際交流事業を継続し、今年度100万円を国際交流教育振興引当特定預金に寄付する。(24回目)
3. 総合名簿作成事業積立金として、今年度20万円を加算積立する。
4. 平成2年より継続中の(仮)奨学・特別表彰積立基金は目標額(2,500万円)に達し、目標額を1億円および名称を教育支援積立基金と変更して事業を継続してきたが、近年運用果実が期待できず、また長引く経済不況で就学する学生にとって厳しい状況が続いているため、同窓会が同基金を取り崩し北海学園大学生の教育活動へ効果的な支出ができる教育支援特定預金とすることとする。
5. 大学・同窓会のオリジナルグッズ等について、小委員会で検討の上、作成作業を進める。

平成24年度 事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

1. 一般事業

1. 豊平会報の発行

豊平会報 第68号 送付 24. 4. 14 経・普・法・人・工学部住所確定会員39,791名に送付
豊平会報 第69号 印刷・送付 24. 9. 10 経・普・法・人・工学部住所確定会員40,927名に送付
24. 9. 30 新会員(24年9月卒)本年度卒業の新会員98名に配布
豊平会報 第70号 印刷・配布 25. 3. 20 新会員(25年3月卒)本年度卒業の新会員1,786名に配布
また、予備会員である在生(1年～4年)にも配布した。

2. 支部等との連携強化と育成(支部等活動状況～同窓会本部に連絡のあった分)

24. 4. 14	写真部OB北彩会総会	24. 6. 30	岩田地崎支部総会
24. 4. 21	グリークテアOB会総会	24. 7. 1	駒牛会総会
24. 4. 21	山岳部OB会総会	24. 7. 18	札幌東区支部総会
24. 4. 21	苫小牧支部総会	24. 7. 21	空知支部総会
24. 4. 22	千歳支部総会	24. 8. 2	東園会総会
24. 4. 15	小樽支部総会	24. 8. 4	北門会奨励研修会
24. 5. 22	岩見沢市役所支部総会	24. 9. 15	経三期会総会
24. 5. 24	北海学園大学支部総会	24. 9. 20	椎内支部総会
24. 5. 25	北翔会総会	24. 9. 30	ゆうほう会総会
24. 5. 30	江別市役所支部総会	24. 10. 12	東京支部総会
24. 6. 1	静内支部総会	24. 10. 20	会計学友会総会
24. 6. 1	経五期会総会	24. 10. 20	経八期会総会
24. 6. 6	経六期会総会	24. 10. 26	根室支部総会
24. 6. 9	関西支部総会	25. 1. 9	豊陽会総会
24. 6. 16	サッカー部OB会総会	25. 2. 2	応援団OB高志会総会
24. 6. 16	帯広信用金庫支部総会	25. 2. 15	木端会総会(工学部建築学科)
24. 6. 29	道南支部総会	25. 2. 16	北社会総会(工学部社会環境工学科)

3. 新会員名簿の作成(豊平会名簿 平成24年度版)

平成24年度新入会員(平成24年9月卒業・平成25年3月卒業)名簿を作成し、なお、配布については、平成17年4月施行の「個人情報保護法」の取り扱いとの関係で、見合わせる事とし、慎重に対応していく事とした。

4. 新会員歓迎パーティの開催

25. 3. 20 卒業証書・学位記授与式終了後、新会員(1,786名)を招き大学・学生自治会と共催で、午後2時より札幌パークホテルB2Fパークプラザで、役員・支部長・評議員(卒業期・地域・職域)が出席し、卒業祝賀会を開催した。

5. ホームカミングデーの開催

24. 10. 6 同窓会・大学共催による第5回ホームカミングデーが開催された。「(北海道道庁電力事務所)小坂直人経済学部教授、「あなたの家は大丈夫ですか?」真柄祥吾 工学部教授、(コーディネーター)樽見弘記 法学部教授、OBの有資格者による「無料相談会」、OB異業種ネットワークの協力支援による日本カイロプラティックテイクター専門学校札幌校の生徒による「無料カイロ施術」、写真部OB北彩会による「写真展」、学生食堂を開放しての軽食サービス等を実施し、にぎわった。

6. 「総会・懇親会」の準備・運営

担当幹事会 (第1回)	24. 7. 27	(1) 「同窓の夕べ」開催の件について	(2) 「全国支部長会議」開催の件について
世話人・協力団体会議 (第1回)	24. 8. 21	(1) 「同窓の夕べ」開催の件について	(2) 会券の配付について
総会・懇親会 (第2回)	24. 9. 19	(1) 「同窓の夕べ」開催の件について	(2) 「札幌パークホテル3Fバークホール」

7. 母校行事への協力

各団体への経費助成

24. 4. 5 教育会館入取付け
十月祭・工学祭・対東北学院大学定期戦
全国大会出場 定期公演・演奏会等助成
体育会系23団体・文化会系12団体

8. 会務運営に関する諸会議

幹事会 (第1回)	24. 5. 21	(1) 平成23年度事業報告及び決算について	(2) 監査報告について	(3) 役員選任について	(4) その他			
幹事会 (第2回)	24. 6. 6	(1) 平成24年度事業計画(案)について	(2) 平成24年度予算(案)について	(3) 役員選任について	(4) その他			
評議員会	24. 6. 25	(1) 平成23年度事業報告並びに収支決算の承認	(2) 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の承認	(3) 役員選任について	(4) 支部の設置認可について(報告)	(5) その他		
幹事会 (第3回)	24. 9. 11	(1) 平成24年度「総会・懇親会」開催の件について	(2) 「同窓の夕べ」会券配付について	(3) 「全国支部長会議」開催の件について	(4) ホームカミングデー開催の件について	(5) その他		
幹事会 (第4回)	25. 1. 16	(1) 平成24年度「同窓の夕べ」(総会・懇親会)終了結果報告について	(2) 第5回ホームカミングデー終了報告	(3) 平成24年度「卒業祝賀会」開催の件について	(4) その他			
常任幹事会 (第1回)	24. 4. 26	(1) 平成23年度 事業報告(案)について	(2) 平成24年度 事業計画(案)について	(3) 役員選任について	(4) その他			
常任幹事会 (第2回)	24. 12. 12	(1) 平成25年度事業計画(案)について	(イ) ホームカミングデーの件	(ロ) 全国支部長会議の件	(ハ) 同窓の夕べ(総会・懇親会)の件	(ニ) 教育支援積立基金の件	(ホ) その他	
全国支部長会議 (第3回)	25. 3. 27	(1) 平成25年度 事業計画(案)について	(2) その他	(1) 入試の現状	(2) キャリア支援センターの現状	(3) その他		
担当幹事会議 (第1回)	24. 6. 18	(1) 「ホームカミングデー」開催の件について	(2) 会報第69号・土業の件について	(3) 「全国支部長会議」開催の件について	(4) 「同窓の夕べ」開催の件について	(5) その他		
担当幹事会議 (第2回)	24. 7. 20	(1) 「ホームカミングデー」開催の件について	(2) 「全国支部長会議」開催の件について	(3) 「同窓の夕べ」開催の件について	(4) その他			
担当幹事会議 (第3回)	24. 7. 27	(1) 「ホームカミングデー」開催の件について	(2) 「全国支部長会議」開催の件について	(3) 「同窓の夕べ」開催の件について	(4) その他			
担当幹事会議 (第4回)	24. 8. 10	(1) 「ホームカミングデー」開催の件について	(2) その他					
担当幹事会議 (第5回)	24. 9. 27	(1) 「ホームカミングデー」開催の件について	(2) その他					
担当幹事会議 (第6回)	24. 10. 18	(1) 「同窓の夕べ」開催の件について	(2) その他					
担当幹事会議 (第7回)	24. 11. 7	(1) 「ホームカミングデー」終了報告について	(2) 「全国支部長会議」終了報告について	(3) 「同窓の夕べ」終了報告について	(4) その他			
担当幹事会議 (第8回)	25. 1. 23	(1) 平成25年度事業について	(イ) ホームカミングデー	(ロ) 全国支部長会議	(ハ) 総会・懇親会	(ニ) 特別事業	(ホ) 教育支援積立基金の件について	(ヘ) その他
担当幹事会議 (第9回)	25. 2. 15	(1) 教育支援積立基金の件について	(2) その他					
担当幹事会議 (第10回)	25. 2. 26	(1) 教育支援積立基金の件について	(2) その他					
事務局会議 (第1回)	24. 6. 20	(1) 「評議員会」開催の件について	(2) その他					
事務局会議 (第2回)	24. 8. 2	(1) 「ホームカミングデー」開催の件について	(2) 「同窓の夕べ」開催の件について	(3) 「全国支部長会議」開催の件について	(4) その他			
事務局会議 (第3回)	24. 10. 3	(1) 「ホームカミングデー」開催の件について	(2) その他					
事務局会議 (第4回)	24. 10. 17	(1) 「同窓の夕べ」開催の件について	(2) その他					
事務局会議 (第5回)	25. 3. 15	(1) 「卒業祝賀会」開催の件について	(2) その他					
会報部会 (第1回)	24. 6. 11	(1) 「豊平会報第69号」発行について	(2) その他					
会報部会 (第2回)	24. 6. 26	(1) 「豊平会報第69号」発行について	(2) その他					
会報部会 (第3回)	24. 11. 29	(1) 「豊平会報第70号」発行について	(2) その他					
学生部・事務部と協議	25. 2. 25	(1) 卒業祝賀会の件について	(2) その他					

II. 特別事業

- (1) 学園創基・大学創立及び本会結成を記念した国際交流基金造成事業を継続してきたが、北海学園が同基金を取り崩し、国際交流教育振興引当特定預金とすることした。本会としては引き続き、国際交流事業を継続し、100万円を北海学園に寄付した。(23回目)
- (2) 平成2年より継続中の奨学・特別表彰積立基金は目標額(2,500万円)に達したが、目標額を10,000万円および名称を教育支援積立基金と変更して事業を継続する。今年度は300万円を予算計上して、その使途について、常任幹事会で検討していただき、教育支援積立基金に加算積立する事とした。また、教育支援積立基金の概要については、引きつづき常任幹事会で検討を継続した。
- (3) 総合名簿作成事業積立金として、今年度20万円を加算積立した。
- (4) 大学・同窓会のオリジナルグッズ等について、小委員会で検討の上、作成作業を進めた。

平成24年度 収支決算書

北海学園大学同窓会 平成24年度 収支決算書

自:平成24年4月1日 至:平成25年3月31日(単位:円)

Main financial statement table for Heigakuin University Alumni Association, 2012. Columns include category, item, budget, actual, and description. Rows are divided into 'General' and 'Special' sections.

(注) 次年度繰越 1.一般会計 ¥16,565,741(北洋銀行・普通預金) 2.特別会計(予備金費) ¥124,950,000(北洋銀行・定期預金21年~24年) 予備金費受取利息・積立 ¥22,431(北洋銀行・普通預金) 3.特別会計(特別事業) ¥55,346,554(教育支援積立基金・総合名簿作成事業積立)(北洋銀行・定期預金)

監査報告書

北海学園大学同窓会 会長 森本 正夫 殿

平成25年5月13日

私ども会計監事は、北海学園大学同窓会の平成24年度(平成24年4月1日~平成25年3月31日)収支決算書について監査を行った結果、下記の通り報告致します。

記

- 1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、収支決算書の記載と合致していることを認めます。
2. 金銭出納簿、その他会計関係諸記録は、その状況を正しく示していることを認めます。
3. 事業計画に基づき業務遂行がなされ、また、幹事会も適切に運営・実施されていることを認めます。

以上

監事 住所 氏名 横谷 直夫
監事 住所 氏名 桜田 久
監事 住所 氏名 高岡 昌和

平成25年度 予算

北海学園大学同窓会 平成25年度 予算

自:平成25年4月1日 至:平成26年3月31日(単位:円)

Budget statement table for Heigakuin University Alumni Association, 2013. Columns include category, item, budget, and description. Rows are divided into 'General' and 'Special' sections.

クラブ・サークル活動通信

卒業生、サークルOB・OGの皆さん、
応援よろしくお願いします！

【基礎スキー同好会】 主将 井上 晴熙 法学部3年

基礎スキー同好会は現在、男子21名、女子6名の計27名で活動しています。夏は豊平川河川敷にて、スキーにかかわるトレーニングを中心に冬のシーズンに向け練習しています。冬は主に藻岩山スキー場を拠点とし週3回雪上練習、その他に合宿等を通じて大会へ向け活動しています。

昨年度は卒業した先輩が、全国学生岩岳スキー大会にて個人戦優勝など輝かしい成績を収めました。それに続こうと部員一人ひとりが切磋琢磨して練習に励んでいます。

また、基礎スキー同好会は今年で創部30周年を迎えました。これも先代の部員の皆様が作り上げてきた部の伝統が引き継がれてきたからだだと思います。スキーのできる環境とご支援に感謝して、これからも素晴らしい部活を作り上げていきたいと思っています。



【将棋研究会】 会長 湯谷 敬輔 経済学部3年

将棋研究会は、1970年に発足されたその名の通り将棋を研究する歴史あるサークルです。将棋は、「知」のスポーツとして認識されており、1000年以上前から存在するボードゲームの1種で、日本の伝統の1つとなっています。日本人なら1度は遊んだことがあるのではないのでしょうか？ 現在、男子30名で構成されており、経験者はもちろん初心者も入会しています。ほぼ毎日大会に向けて文化棟3階にある部室で将棋の研究に励んでいます。これまでに数多くの実績を残し、ここ数年団体戦では準優勝、個人戦では数名が入賞しており、年に1度開かれる本州の大会にも毎年参加しています。また、いつも将棋を指しているわけではなく、先輩後輩の交流を深めるべくソフトボール大会や十月祭などの学校行事にも積極的に参加しています。サークルの目標として団体戦の優勝と個人戦の入賞を目指し、遊びが多様化している今だからこそ日本の伝統である将棋を守っていききたいと思っています。



事務局からのお知らせ

◆訃報

山下 和夫 氏 名誉教授

昭和39年本学法学部助教授・教授
平成25年4月20日逝去 (80歳)

山本 佐門 氏 名誉教授

昭和55年本学法学部教授
平成25年7月28日逝去 (70歳)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



『豊平会報』をお届けします！

この会報は、年2回(3月・9月)発行して卒業生(正会員)の皆様へ送付しています。
また、現在同窓会の予備会員である在学生の皆様にも同窓会活動を理解して頂くために配布しております。
会員相互の親睦・交流を図ることができますので、全国50支部の総会や同窓の集いなどにぜひご出席ください。

道内探訪 vol.1
スケッチ

「旧北海道庁」
中村 保忠 作

プロフィール：経済学部経済学科 昭和41年卒業
奈良芸術短期大学 洋画コース卒業
奈良市在住

北海学園大学同窓会

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40
TEL: 011-841-1161(内線1148) / FAX: 011-816-1001
E-Mail: doso.hgu@k8.dion.ne.jp
ホームページ: <http://www.hgu-dousoukai.org/>

住所等変更届けのお願い

会員の皆様へ、お名前、ご住所、勤務先等に変更が生じた場合は、お手数でもFAX・ホームページ、または同封の「住所等変更届ハガキ」にて同窓会事務局までお知らせ下さいますようお願いいたします。
個人情報同窓会活動以外には使用いたしません。